第 18 回日本都市計画学会中部支部研究発表会の報告

2007 年 11 月 2 日　会場　岐阜市生涯学習拠点施設ハートフルスクエアーG

第 18 回日本都市計画学会中部支部の研究発表会ならびにシンポジウムが、平成 19 年 11 月 2 日に岐阜市にある生涯学習拠点施設ハートフルスクエアーGにおいて開催された。午前中の研究発表会、また午後のシンポジウムには一般市民を含め、大勢の出席者が参加して、活発な質疑応答が行われた。

1．午前の部（10：05～12：35）・・・研究発表会

例年と同様に、午前中は２階の大研修室（第１会場）と中研修室（第２会場）の 2 会場に分かれて、合計 14 編の研究発表が行われた。第１セッション（第１会場）では、「都市交通・地区交通」に関する研究発表が３編、第２セッション（第１会場）では、「中心市街地活性化」に関する研究発表が４編、第３セッション（第２会場）では、「景観・視覚情報」に関する研究発表が３編、第４セッション（第２会場）では、「地域計画・防災」に関する研究発表が４編、それぞれ報告され、午前中から活発な議論が行われた。

研究発表の内容は、「自治体境界を越える都市公共交通計画の取り組みー豊田･三好一次交通圏を事例にしてー」（板谷和也、他：豊田都市交通研究所）、「地下鉄有料自転車駐車場における利用率向上に関する研究」（水野彩子、他：東海サンユーテクノス）、「子供の視点からみた通学路環境の一考察」（藤本尚子、他：名古屋工業大学）、「地方都市の中心市街地再生に果たす鉄道駅の役割に関する研究」（三寺潤、他：日本学術振興会特別研究員）、「銀行統廃合が都市機能に与えた影響」（曽根英貴、他：名古屋市立大学）、「エージェントアプローチによる商業地歩行者回遊行動モデル構築の試み」（吉田琢美、他：名古屋工業大学）、「まちづくりのためのマルチエージェント型都市モデル」（奥島政嗣、他：岐阜大学）、「仮想都市の認知に際しての注視特性」（大森峰輝：豊田工業高等専門学校）、「地区空間整備における３次元の空間認識に関する研究」（山崎俊夫、他：名古屋工業大学）、「地方都市における景観計画での高さ規制の意義と課題」（本多弘司：豊田市都市景観審議会委員）、「東海４県における農業用水の維持管理への住民の関わりー都市内中小河川における地域共同管理に関する研究ー」（浦山益郎：三重大学）、「中国西安市における城中村の賃貸化の実態に関する研究」（易洪艶、他：福井大学）、「木造住宅の耐震補強促進方策に関する基礎的研究ー災害後の住宅再建支援制度の存在が事前の耐震補強実施の意志決定に与える影響に関する分析ー」（池田浩敬：富士常葉大学）、「原子力発電所災害発生時の避難行動における問題点に関する研究」（松本拓朗、他：福井大学）であり、非常に多岐にわたる内容のものであった。

2．午後の部（13：30～16：30）・・・シンポジウム

午後からは、「魅力ある都市の顔づくり」をテーマにシンポジウムが開催された。

岐阜市副市長英直彦による基調講演のあと、水谷香織（パブリック・ハーツ株式会社代表取締役）のコーディネートによりパネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションでは、「中心市街地の再生」に向けて、いろいろ議論が行われた。具体的には、現状分析を的確に行い、商店街としての魅力を引き出す工夫が必要であり、そのためには商店としての個性を出すことが重要であること、また、商店街として連携をとっていくことが重要ではないか、などの議論が行われた。

写真　午後のシンポジウム

最後に、柳ヶ瀬は良い面でも、悪い面でも、間違いなく変わってきている。市民活動も活発化してきている。これからの柳ヶ瀬に期待したい、としてパネルディスカッションが締めくくられた。

(文責：高山純一(金沢大学))